答辞

早春を迎え、少しずつ温かさを感じられる季節となりました。本日を以て私たちは修猷館高校を卒業します。困難な状況の中、このような素晴らしい式典を催していただいたことに、心より感謝申し上げます。

卒業するにあたり高校生活を振り返ってみると、そこにはたくさんの挑戦と成長がありました。

三年前の春、憧れの六光星のついた制服を身にまとい修猷の門をくぐりました。しかし、新しい高校生活に胸を躍らせていた私たちを待っていたのは厳しい応援歌指導でした。とんでもない所に来てしまったという不安を感じると同時にこれから先の覚悟をきめた瞬間でした。

また、何度も耳にした「一年は修猷の型を学べ」「二年は型に挑め」という言葉。初めは戸惑いましたが、今となっては修猷で高校生活を送る上でとても大切な姿勢が示されていたのだと感じています。

毎月のようにあるテスト勉強に急かされながらも、放課後遊びに行ったり、行事に夢中になったり、全てのことが刺激的で、とても充実した日々を送りました。部活動に打ちこんだ仲間もたくさんいます。

一年生から二年生へ年度が替わる三月、全国一斉に休校となりました。ワクワクしながら進めていた初めての大文化祭も中止が発表されました。当たり前だった日々が本当にありがたいものであったと痛感し、stay home と言われ続け、じっと待ち続けるしかない時間に苛立ちを感じました。

五月の末、学校が再開されると、今までの時間を取り戻すかのように活気にあふれた空気が学校を包みました。

行先の変更を余儀なくされましたが、十月には研修旅行に行くことができました。仲間と過ごす時間はとても特別なものでした。

三月、前年度はできなかった大文化祭も感染症対策に万全を期して開催しました。普段の学校生活ではわからない友達の発想力や創造力にますます尊敬の念が深まりました。早朝から外が真っ暗になるまで、一致団結してクラス企画に取り組んだ時間はかけがえのないものだったと思います。

九月に行われた大運動会伝承会。まん延防止措置の中で通常の運動会はできませんでした。その過程で本当に多くの議論が行われました。様々な立場の生徒が各々の意見を持っていましたが、それらをすべてぶつけるには時間が足りないほど論点も多かったように思います。一人ひとりの思いが強くなるほど、対象の規模が大きくなるほど、着地点を探すのが困難になるのだと感じました。

また、ひと夏かけてどれだけ抜かりなく準備・計画していても、不可抗力の壁があり、非常に悔し

い思いをしました。しかし、本来目指していたものと違うものになっても「伝承」という目的が定まると、それに向かって身を粉にして最善を尽くしていた修猷生の姿を忘れられません。そして、目まぐるしく変化する状況の中、最後まで諦めずにこの学年の色をだせる行事にできたことは、私たちの大きな成果だと思います。

現在、感染症の終息も先が見えず、ヨーロッパでは大規模な軍事衝突が起こっています。他にもますます深刻化する環境問題や格差問題など、問題が山積みです。これから私たちはかつて想像もしなかった困難に直面するでしょう。私たちは一人ひとりが意思を持ち、培った能力と経験で世界と向き合っていかなければなりません。身が引き締まる思いです。

先生方、私たちを温かく見守ってくださりありがとうございました。豊かな学びのある授業をしてくださり、一人ひとりに親身になってくださった先生には感謝してもしきれません。先生方は、私たちを信用し、判断を任せ、間違った方向へ進んでいきそうになるとブレーキをかけて、考える時間を与えてくださるそんな存在でした。

そして、いつも私たちの味方であり支え続けてくれた家族。温かい存在があったからこそ、私たちは安心して青春を謳歌することができました。本当にありがとうございます。これからは自分の手で未来を切り拓いていきます。

真剣に夢を語り合った時間も、大きな声で笑い合った時間も十分すぎるほど過ごしましたが、まだまだ足りないように感じてしまいます。しかし本日を以て私たちは修猷館高校を卒業します。この先、長い旅路にはどのようなことが待っているでしょうか。

今、西のみ空に輝ける六光星に、卒業生一同感謝の意と未来への決意を示しまして，答辞とさせていただきます。

令和四年　三月五日

卒業生代表　中原　弥子